
キャラ崩壊！！物語1～こくこく染まる黒～

桜井はる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キャラ崩壊！！物語1〜こくこく染まる黒〜

【Nコード】

N0214BA

【作者名】

桜井はる

【あらすじ】

これはキャラ崩壊します！！

うん。絶対絶対

しかも非現実的で、魔法とかでてくるかも……

それと、これは原作の事件の内容とか、トリックほとんどつかいません

それがやならよまないでください！

あと苦情、うけつけません。

てか無視します。

それでもいいならよんでみてくださいいな。

それがいはバツクばつく!!

コナンさんの性格とかかわってるし。

灰原さんも!!

本当もうどたばたです!!

でわ

ファイル1 物語の設定

まず内容設定

登場人物

江戸川コナン（工藤新一）

どうして偽名つかってるかは知ってるよね？そこはとばします
この物語の主人公。

町一番の美少年とのうわさだが本人はそんなことききしていない。
またキッドキラ、少年探偵団の頭脳、星として有名だが控えめな
発言などでさらに人気がでていることは本人はぜんぜん知らない。
最近、組織の人間の気配がわかるようになった。

最近危険なことがおおすぎて普通の生活というよりもいつ組織に
招待がばれるかはらはらどきどきの生活をおくっている。

毛利蘭

かなりの美人だが、新一が居るため「男子もねらってこない。

コナンのことを影でささえるお姉さん。

コナンの正体にはききしていない。

新一のかえりをこころまちにしている。

灰原哀（宮野志保）

コナンとおなじでおおまかな設定はみんなしってるよね？

最近、平和ボケになってきたらしく組織の第五感がはたらなくなり、
組織の気配がわからなくなった。

コナンのようなあかるくも、言葉にとげがあるような性格になり、
組織にはあまりおびえなくなった。

推理力もコナンといたおかげでコナンほどではないがどんどんあが
った。

子供達ともなかよくなり、歩美のことをたまに歩美ちゃんとよぶよ
うになった。

組織へのおびえ方はコナンと真逆になった感じ。

吉田歩美

コナンと灰原の正体にきずき、光彦、げんたとともに二人をといつめ、見事二人の正体をしり、協力してくれるようになった。哀とは本当になかよくなり、信頼しあえる存在。

コナンのことがすきだが、その思いは胸にしまつてある。

円谷光彦

歩美とともにコナンと哀の正体をしる。

それから二人に協力している。

哀に好意をもつていて、組織のことが終わったら哀に告白しようとしている。

コナンにもきをゆるしてはおたがいに信頼しあっている。

小島げんた

歩美、光彦とともに、コナン、哀の正体をしる。

それからは二人に協力している。

コナンのことを親友としてみとめていて、歩美のことがすき。

警察関係者はマンガをよんでね

服部平次

くわしくはマンガで

かずはがていたんに母親の事情で天候することになったため、ついできた。

いまはあがさ邸に居候中。

コナンのことをささえている。

遠山かずは

平次とともにあがさ邸に居候中。

コナンの正体にきずいていない。

灰原アミ（クリスマスヴィンヤード）

組織を裏切り、あがさ邸まできて、そこでAPT-Xをのみ幼児化し、哀の双子の妹としていたんにかよっている。また、あがさ邸に居候中。組織はクリスが秘密主義者のため、大丈夫だと思い、クリスをおつてこないため、クリスは哀とコナンの協力をしている。

コナンのことを江戸川君、哀のことを哀とよんでいる。

大野夢（浦野ユリ）

FBIで下っ端としてはたらいっていたが、クリスがもってきたAPTXをまちがえてのんでしまい、コナンたちの正体を知った。

組織の存在さえしらなかつたため、組織に狙われる可能性がないことをおおいによるこんでいた。

あがさ邸に居候していて、ていたんにかよいながらコナンと哀の協力をしている。

鈴木園子

くわしくはマンガを

コナンたちの正体をしらず、最近キツドの事情をしり、キツドの助手の、怪盗レディーレディーをしている。

黒羽快と

くわしくはマンガを

二代目快等キツド。

その子を信頼していて一緒に仕事をしている。

青子がすぎ。

毛利小五郎

くわしくはマンガへ！

コナンたちの正体をしらない。

えりとよりをもどし、コナン、蘭、小五郎、えりの4人暮らし中。

妃えり

小五郎とおなじ。

てな感じ？

途中でまだまだでてくるよ

これは現実てきじゃなくて非現実的っす！

魔法とかでてきちゃうかも……

ファイル2 黒の組織との再会。コナン編

学校の休み時間……

夢

「ねえねえ知ってる？こんどのゴメラの撮影でしんじやった人をし
のぶ会」

歩美

「もちろん！！しってるよ！外国の有名な俳優さんとか、スポー
ツ選手とか、いろんな有名人がくるんだよね」

夢

「そうそう。それでね、子供だからこそつとしのびこめるしって
みないって平次おにいさんが。おにいさんだけ正体されてるの。今
日の夜！」

光彦

「そうですね。ぼくらも一応有名人ですもんね。」

げんた

「だよな。いってみようぜ」

アミ

「まあ。いってみようかしら？」

哀「そうね。てか江戸川君は？」

みつひこ「ああ。ちょっと風っぽいみたいで保健室でねてますよ？」

哀「へえ。まあ江戸川君だったらついてきそつね。」

歩美

「うん。うん。まあ今回はいいんじゃない？」

哀

「しょうがないわね。」

そのころコナンは……

コナンは夢のなかにいた。

みんなで「学校の帰りに雪がふる道があるいている。

げんた

「おい観たかよ昨日の試合！」

コナン「ああ……ヒデのオーバーヘッドだろ？」

光彦「芸術的でしたよねー!!！」

『戯言は終わりだ……さあ夢からさめて……お前の好きな緋色で、再会をいわおうじゃないか……』

コナンたちはポルシェのよこを「とおりすぎる。

『なあ……工藤新一……』

コナンはとびおきた。

コナン

「ハア、ハア、いやな夢だぜ……」

コナンは頭をかいた。

保健室の先生はいないようなので保健室をぬけだす。

教室につくともう事業がはじまっていた。

小林

「あら、もう大丈夫なの」

コナン「はい。すみませんでした……」

息はたしかにきれていてひどく冷や汗をながしていた。

コナンは悲しい険しい表情で席にすわった。

哀

「夜、子供たちと服部君といっしょにしよにしのぶ会に行くの。ハイドシティホテルの。あなたもいくでしょ？」

コナン

「ん、あ、ああ……」

そのすぐあとに授業がおわった。

歩美「わ〜みて、雪がふってるよ〜」

げんた「すっげ〜」

歩美「ほら、コナンくんも・・・」

歩美がコナンの手をつかんだ。

コナンはつよく手を振り解く。

コナン

「俺にさわんなー!!」

歩美

「こ、こ」

光彦

「コナン君・・・?」

アミ「・・・」

夢

「・・・」

哀

「・・・」

コナン

「もっしんざりだよ・・・。みんなと一緒・・・。すべてでもいっしょからきえちまいたいくらいに。まあそのうちそのうちなるだらうけど・・・」

歩美

「え〜コナン君天候しちゃうの〜」

光彦

「ひよっとしていじめですか!？」

げんた

「そんなのおれがやつつけてやんよ!！」

歩美「あ……もしかして、組織のこと……？」

コナン「へ？あ、わり。風邪気味だったからうつしたくないだけだよ。」

歩美

「よかったあ。さあかえろ？あがさ邸までみんなでいってそのまましのぶ会いくんだから」

コナン

「ああ。そうだな。」

アミ、あい、夢「……」

全員で帰りみちをあるいていた。

歩美「ゆーきやこんこんあらねやこんこん」

コナン「……」

哀「ここは自分の居るべき場所じゃない……この子達をまきぞ

えにしないためにも早くここから消えなければ……」

コナン「へ？」

哀「なんてくだらないことかかんがえているんでしょう？」

夢「大丈夫だよ。薬で体がちじんだなんて夢物語、誰もおもいついたりしないよ〜ね、あみ？」

アミ

「そうね。ばれないためにもこのまま子供をえんじつづけなきゃいけないのよ……」

哀

「そのときがくるまではね……」

光彦

「心配しないでください!!」

げんた

「やばくなったらよ、」

歩美

「歩美たちが二人をまもってあげるもん」

コナン

「（おめえら……なにもわかってねえんだな……俺らだけではないとができるあいてじゃねえことは今までの経験でわかってんだろ？もしかしたらあの夢のように今もこの町のどこかで俺たちを……）」

コナンはびっくりした顔で「そばにとまっているポルシェ356Aをみた。」

コナン「おい、それ……」

歩美

「ぼ、ポルシェ……」

哀

「てことはジンの……」

哀は博士に電話しだした。

哀「すぐきて、そう、あれをもって！！みんなでのれるレンタカーかりてきなさい！！」

しばらくするとおおきなワゴン車にのった博士と平次がやってきた。哀と平次ははかせがもってきたハンガーと針金で車のドアをあけて中にはいりこんだ。

コナン

「ちよ、おい！！」

哀は盗聴器と発信機をしかけた。

コナンもあわてて車の中にはいりこみとおりの向こうをみてあぜんとした。

コナン

「ジン、ウォッカ・・・」

とおりのむこうにはその二人がいた。

コナンはあわてて平次と哀をむっすりやりひっばってほかのこともたちとともにハカセのレンタカーにのりこんだ。

哀

「よし、発信機と盗聴器をしかけたわよ。」

平次

「とりあえずここで盗聴器から聞こえてくる音をきこうやないか・・・」

コナン

「危険だ!! やめろって」

哀

「うるさいわね、だまってなさい!!」

歩美「あ、きこえてきた・・・」

ジン「ああ、おれだ。どうだ？ そっちの様子は・・・？ なに？ まだこない？ 安心しろ。ターゲットは18時ちょうどにハイド氏8ティホテルに顔をだす。てめえの別れの快になるともしらぬ。とにかくやつのがうりろにまわるまえに口をふさげとのめえいれいだ。ぬかるなよ？ スコッチ。何なら例の栗をつかってもかまわないぜ？」

げんた

「す、スコッチ?」

ジン「(ん?特徴があつてさらさらの短めの黒髪……?)」

ウオツカ

「な、なんですかそれ?」

ジン

「発信機と盗聴器だ。」

アミ

「ばれた!?!」

ジンは盗聴器をつぶした。

ジン

「(まさか本当にいきってたとはなあ……歓迎するぜ?工藤新一……)」

コナン

「どうすんだ?状況はかなりわりいぜ?」

哀

「大丈夫。社内に私たちの痕跡はけしたから。」

コナン

「これからどうすんだよ?」

平次

「パーティーに全員でのりこむんや。ターゲットはおそらく横領の

疑いがある近藤正孝や・「

コナン「俺はごめんだぜ？」

哀

「ええ。最初からそのつもりよ。あなたは博士と車の中でまっぴなさい。」

アミ

「そつね」

歩美

「例の薬ぐらいはもってきてあげるから。」

ジン「ああそつだ工藤新一だ・・・殺し底値たあのがきがそつちにむかっているはずだ。面がわかんねえんなら組織の被験者リストをしらべろ。」

ああ。まちがいなくあの男はくるさ。あいつはそついうやつだからな。

とにかくがきをみつけしだいとつつかまえて面をおがませろ。ああ、問題ない。たとえ首から下がなくてもな・・・」

コナン「え、あ、あ……」

哀「うん!!」

夢

「いまおとーさんがしてるよ」

歩美「いこ〜光君」

歩美たちはコナンをつれてきた。

歩美

「どろしたの?」

夢

「コナン君らしくないよ?」

平次

「せや。」

コナン

「みたんだよ……」

一同「へ?」

コナン

「いやな夢……下校途中にジンたちにみつかって路地裏においでまれて一人一人、ジンに銃殺されて……」

哀がそんなコナンに自分の帽子をかぶせた。

哀

「大丈夫よ。」

げんた

「そつだぞ」

光彦

「それをかぶってあげればだいじょうぶです」

歩美

「うんうん」

コナン

「……そつだといんだけど……」

コナンはやさしく笑った瞬間スライドのせいで電気がぱっときえた。

ぱあ〜ん!!

哀

「銃声」

どんがらがっしやん!!

シャンデリアがおちてきた。

ハンカチがいちまいふつてきて哀画キャッチした。

でんきがつくとおちたシャンデリアとそれにつぶされて死んでいる近藤正孝がいた。

悲鳴がいつきにきこえてくる。

軽侮たちがやってきてドアをしめた。

そこにはもう貴社がいつぱいだそうだ。

めぐれ

「怪しい人を見た人はいませんか？」

警部がさげぶがみんなだまっていた。

孝は普通にライスをたべていたが途中でぺっとシャンデリアの破片を由佳にはきだした。

孝「なんだこれ？」

哀はそれをさつとハンカチにくるんでとつた。

平次

「シャンデリアをおとすなんて仕掛けでもないかぎりむりや。いったいどーやって。」

みんながかんがえふけているとコナンが哀の手をつかんであつきました。

哀

「ちよつとー!!」

コナン

「これ以上ここに居座る必要はねえだろ。いくらおれたちだって落ちてきたハンカチだけじゃ。」

平次

「二つならどつや?」

コナン

「え?」

歩美

「住山っておじさんがご飯からシャンデリアのはへんをおとしたんだよ?」

平次

「それにハンカチもここで配られる限定もの。色があつてさっきしらべたらあのハンカチとおなじのをもらったひとは7人だけや。」

アミ

「つまり容疑者はそれだけ。」

哀「ねえ刑事さん。トイレっていい?」

刑事

「いいよ。どつぞ。」

ドアを開けた瞬間すごい勢いで記者たちがはいつてきた。

みんなフラッシュをしていて100人はこえている。

一同は啞然とした。

スコッチ「……………」

スコッチはパソコンをあけた。

かたかた

KUDOUSINNIITI

ぴゅん

スコッチ「……………」

しばらくすると客もかえろうととしてでようとして大混雑になってしまし
まいそれに一同のみこまれ200人をこえるひとがぎゅぎゅ
ズ目になってはいろいろとしたりかえろうとした。

平次「お、おい大丈夫かあ!!」

哀

「あれ、工藤君は!?!」

アミ

「いなくなってるわよ!?!」

歩美

「うそ、こなんくん!?!ど!?!」

げんた「こなん!?!」

光彦「コナン君!?!」

哀

「どこ、くどうくん!?!?!工藤君!?!返事して!?!」

平次

「おい、あれ工藤とちゃうか!?!」

コナン「あ、ちょ...」

コナンはだきかかえられた。

アミ

「だれかにかかえられてるよ!?!」

哀

「もう、とおすぎるし人がおおすぎる!?!」

コナンは口にハンカチを「あてられた。

がばっ

コナン「うっ……」

歩美「口にハンカチあてられてるよー!？」

コナン「……」

がくっ

コナンはそのままきをうしなった。

『コナン君……』

『おきてください……』

光彦

「コナン君!!」

コナン

「え?」

光彦

「どうしたんですか?今授業中ですよ?やっぱりやすんでいたほうが……」

コナン「(夢……?ふっ……そうだよな。下校途中にジンの車を見つけたらなんてできすぎてるよな……風邪のせいだろうかしまったのか?俺……)」

『コナンくん……』

コナン「え？」

『工藤、おい工藤!!』

コナン「なんなんだ？」

『コナン、コナン!!』

コナン「なんなんだよ……!!」

『工藤君!!』

やっとコナンが目をさました。

コナン「は、灰原?どこだどこ?」

哀「よかった。いまめがねのきのうで会話してるのよ。他のみんなもいるわ。」

コナン

「な、なにがあったんだ？」

アミ

「それはこっちのせりふよ……あなたこそいまどこにいるの?迷子?」

コナン

「んなわけねえだろ。なにがなんだか……」

歩美「歩美たちは博士の車のなかだよ。」

コナン

「あ、たしかおめえらとはぐれてそしたら後ろから男に……」

夢

「に、なに？」

コナン

「だきかかえられてクロロホルムかなにかをしみこませたハンカチで口をふさがれてそのまま「気絶しちまったんだ。」

哀「その男、いまいないんでしょうね？」

コナン

「ああ。どっかの倉庫を酒蔵にしたみてえなところに監禁されてるよ。ドアの鍵はしっかりしまってたけどな。指紋認識装置まであるぜ。」

平次

「今時期円のことをはなして7人の容疑者待機させてんや。犯人そのなかの誰かでまちがいないんやけどまだわかってへんのや。まあその中にスコッチとやらもいるやろうからあんしんしとき。」

げんた「でもよ。やっぱりあいつだったんだ。」

コナン「あいつ？」

夢

「つなぎきておっきなダンボールを台車で運ぶへんなやつがいたの。でね、おいかけたんだけど指紋認識のとかぎかけて私達を無理やり

おっぱらったのよ。」

コナン

「ふうん。あ、パソコンに俺のMOが繋がってる。」

哀

「MO?」

コナン

「ああ。蘭からもらった遠足の写真のやつ。俺の服にはいつてたから多分しらべたらあんだな。携帯もつながってるってことは・・・」

かたかた

コナン

「やっぱり。俺の顔を検索してる。」

歩美

「あれ?コナン君縛られてないの?」

コナン

「ああ。すぐもどってくる予定だったんだな。まあ服部のせいだ足止めされてっけど。」

哀

「どこからかにげられないの?」

コナン

「暖炉がひとつあっけど広すぎて無理だな。元の体ならなんとかなめるかもしれねえけど。」

哀

「ロープかなんかないの？」

コナン

「さあ？でもそんなのがあんなら俺をしばるのにスコッチがつかつてるとおもっぜ？」

コナン「いいか？よくきけ。」

平次「へ？」

コナン

「いまパソコンで組織の構成員だけど住所とかだしたんだ。コレくらならおぼえられんだろ？まずは鹿児島県、
- 5 - 3 黒井竜や。」

哀

「ちよつと、暗記できるんならあとであなたをたすけてからきいてあげるから

「!!」

コナン

「次。」

哀

「やめなさい!!」

コナン「うるせえ!!黙ってきけよ!!もうお前らと言葉をかわすことはねえだろうからな。」

平次

「どづいづことや!?!」

コナン

「わからねえか? やつらは俺が幼児化しているにもかかわらず監禁したんだぜ? てことはもうばれてんだ。俺がこのままにげまわってたらどちらにしるまわりのやつらが殺される。それに俺はもうパイ刈るでもどれねえし灰原のときよりもはるかに状況はわるい。な? じゃあつづけるぞ。」

哀

「とりあえずパイカルとできるだけアルコール濃度が高いお酒をのみなさい。もしかしたら……」

コナン

「わあつたよ……」

歩美「ど、どおしよお……」

平次

「事件当時の容疑者の位置はわかったんやけどな……」

コナン

「なあ、思いつく言葉ってあつか?」

平次

「なんやそれ？」

コナン

「APTXのデータをMOにおとそうとしてんだけどパスワードにひっかかちまって。」

哀

「うん・・・」

アミ

「多分それぴ巢子のとときとおなじたいぶだからおなじパスワードでいいとおもつわ。」

コナン

「あ、ひらいた。このMOかくしとくから俺がつれさられてあとでとりにこいよ。」

哀

「それよりお酒のんだの？」

コナン

「ああ。どづいつつもりだがしらねえが余計気分がわるくなっただぜ。」

「・・・」

博士

「お、おいみんな！！」

一同「え？」

車のまえに人たちの車がやってきて二人がでてきた。

哀

「多分パソコンのなかに発信機がしかけられてたのよ!!」

歩美

「あぶないよコナン君!!悪い人たちがくるよ!!ねえ!!」

コナン

「ハア、ハア・・・」

平次

「おいどーしたくどう、返事せえや、おい!!」

どっくん!!

平次

「警部、服部や、いますぐ黒服の男たちにしょくしつせい!!」

刑事「いないよ?そんな人・・・」

どっくん

どっくん

コナン「アアアアアアア!!!!」

ぱっしゅ、ぱっしゅ

バン!!

ウォツカ「妙でっせ、だれもいやせん。」

ジン「帽子がおちて・・・」

ウォツカ「とにかくくずらがりましょう。」

ジン「ああ、そうだな・・・」

哀「ねえ？もうやつらはいったの？」

コナン「あ、ああ。まさかまたもとにもどるとはな・・・」

哀「あなたふくは？」

コナン

「倉庫にあったつなぎをきてるよ・・・もちろん薬のデータをコピーしたMOももってるよ・・・」

哀

「安心しないで・その効果は一時的。子供になる前に煙突からでて・・・」

新一

「へいへい。で、わかったのか？誰がスコッチか。」

アミ

「残念ながらまだ・・・今大阪の探偵君がみにいったわよ。事件現場。」

光彦「大丈夫ですか？」

新一

「ぎりぎり・・・な。」

哀「あ、わかったわー！！スコッチの正体！！」

新一「で、でたぜ？でこれからどうすればいいんだ？」

博士「そこでまっっているといっておったぞ」

新一「博士？みんなは？」

博士「安心せい、いまそつちにむかつとる。」

新一「わかった・・・」

パシユツ

ジン「あいたかったぜ？工藤新一。」

新一「ハアハア」

ジン「きれいじゃねえか。闇一枚散る白い雪。それをそめる真つ赤な先決・・・」

新一「よ、よくわかったな・・・俺がここからでてくるって・・・」

ジン「だんろのそばに帽子がおちてたからなあ。」

新一「へ、へえ。まあ感謝しなくちゃいけないな。こんなさみいな
かまっててくれたんだし。」

ジン「口が動くうちにきこうか。お前が毒薬をのんでしななかつた
わー¥けを。」

歩美「もうすぐだよ!！」

哀「?・・・もしもし?」

哀「ええ!?!工藤君がうたれた?」

はかせ「そっじゃ、どこかの屋上で。もう2、3歩はうたれてる
ぞお!！」

哀「うそ!?!きるわね!！」

アミ「せつといそがなくちゃやばいわよ!！」

ぱあん!！」

ウォツカ「はきませんか?このがき。」

ジン「ふっ。しょうがねえ。いかせてやるか・・・」

ジン「（針！？）」

ウォツカ「あ、兄貴・・・」

アミ「煙突よ！！早く煙突に！！」

ウォツカ「誰だてめえは！！」

新一は煙突にはいった。

新一「ハアハア！！ウアアアアア！！！！！！」

スコッチ「すばらしい・・・」

コナン「（誰だ・・・？）」

スコッチ「君はまだ赤ん坊だったからおぼえてないだろうがね、女優だったきみの母と私はとつてもしたしくてね、よくいっしょに共演したもんだ・・・だがこれは命令なんだ・・・」

コナン「（誰なんだよお前！！）」

スコッチ「悪く思わんでくれよ？新一くん・・・」

哀「そこまでよ！！バングさん・・・それとも、スコッチってよんだほうがいいのかしら？」

スコッチ「だ、だれだ!？」

哀がスコッチの前にすがたをあらわしいきなりはしりだした。

スコッチもそれをおってはしりだす。

その隙にげんた、歩美、光彦、アミ、夢がはいつてきてコナンにかけよった。

コナンはまだ意識が朦朧としていた。

歩美「大丈夫?コナン君」

光彦「もう大丈夫ですよ。」

アミ「ひどいわね。かるく5、6ぱつはうたれてるわね。」

夢「い、いたそう・・・」

そういとうげんたがぶかぶかのつなぎをきてめがねも帽子もしていない状態でだきあげて恵那かにまわしおんぶをした。

腕は打蘭としていてコナンのさらさらのかみがげんたにあたった。

コナンはもうすでに気絶しかけているようで荒い呼吸をしていた。

哀はスコッチに対し推理をはなしている。

スコッチがスピーカーにむかってはっぽうするとなかからかなりアルコール濃度のたかいさけがでてきてすっていたタバコが引火してもえだした。

そしてスコッチがあたふたしているうちに全員ぬけだした。

それからフロアにいくと平次と高木刑事がいた。

高木「おわっ！！どうしたんだい？コナン君！！」

平次「無事やったんやな！！よかった」

哀

「よくないわよ。どれも急所ではないものの江戸川君もう6発はうつたれているんだから……コレがぢ丈夫にみえる？」

アミ「とりあえずかえりましょう。ここは危険だわ……」

平次「せやな。いこか。」

そして車のなか……

平次「なんやお！？スコッチが射殺された!？」

博士「ああ。新一がおとしていたためがねできいていたんじゃないが。」

哀「にしても髪だけでだれかわかる？普通」

アミ「そうね。江戸川君のかみは男の子にしてはめずらしいほどからさらして細いけど、髪だけじゃ、ねえ……」

光彦「そうですよね……」

げた「でもこええよな」監禁されて銃でうたれたなんて。」

コナンは一番後ろのせきで手をあかくそめて目をうつすらあけながら荒い呼吸をしていた。

哀

「で？どうする紀なの？工藤君。これから……」

コナン「安心しろよ……明日にでもでてっつてやっから……」

博士「おいおい、無理じゃよそんな体じゃあ!!」

哀「大丈夫。私と同じようにさがさないとおもっつから。江戸川君。いまからびょうんいくわね。」

コナン「いいよ。弾は貫通してるし、包帯まけば大丈夫だって……」

哀「でも!!」

アミ「ストップ。しょうがないじゃないの。あんあことがあったのよ？あなたとおなじようにさすがの江戸川君でもこわがっつてもしょうがないでしょう？」

哀「……それもそうね……かえつたら包帯まいて麻醉銃でねかしとけばいいわね。朝まで心配だからみはっつていていたらかれ、ねないだろっつから。」

アミ「そうね……」

歩美「今日は歩美たちもとまってくよ。」

平次「そか。蘭ちゃんにはどうするんや?」

哀「そうね……とまってくって博士、電話してくれる?」

博士「わかった。でも新一、その怪我じゃしばらくあるけないんじゃないかのお。」

夢「平気です。あとで私達が松葉づえ病院からかりてきますから。」

博士「そうかの?あ、ついたぞ。わしはレンタカーかえしてくるか
ら新一君をねかしといてくれんかのお。」

平次

「ああ。それならまかせろや。」

そついうと平次はコナンをおんぶして車からでた。

子供達もそれにつづく。

全員おりると博士は車をかえしにいった。

家にはいると哀の案内でリビングにある大きなベッドにコナンをね
かせると平次がきがえ哀画治療をはじめた。

哀「まったく。ひどいわね……。1週間はあけないわよ?」

歩美「うそお……。学校はどうするの?」

哀「いけっていったていかないでしょ。ね？」

歩美「た、確かに。」

平次が着替えをもってきてコナンはそれにきおがえると布団にはいつたが目はしっかりあいていた。

それをみかねた哀がコナンに麻酔張りをうちこむと、コナンはしずかにねいつていった。

ファイル2『黒の組織との再会。コナン編』(後書き)

登場人物

住山孝(38) カメラマン

マイケル・ブラッグ(29) 俳優

斉藤五木(33) 作家

バング・ローダリー(63) 俳優

朝日洋子(33) 作家

武井広永(55) カメラマン

沢口千夏(22) モデル

コナン君の服装

パーカーのついたジャケットに、水色のセーターとながずぼん。

哀ちゃん

上にセーターでしたに赤色のスカート。

アミちゃん

氷河らのつけえりにピンク色のニットのももんが。

短めのデニムのすかーとにクローのタイツにブーツ。

夢ちゃん

ジャケットに青のセーターに半ズボン

歩美ちゃん

ピンクのニットのワンピースのなかに、ハイネックの白のTシャツ。

ブーツ

光彦君

セーターに長ズボンにマフラー

げんたくん

袖なしじゃけつとにセーターに半ズボン。

ファイル〜目覚め。 & キャラ雑談〜

次の朝、おきるとコナンはもうおきてぼーっと外をみていた。

そんなコナンに哀がはなしかけた。

哀

「どうしたの？浮かない顔して。」

コナン

「ん、あ、あはいばらか・・・なんかさ、昨日、スコッチよりもっとひどくつよくてさっきにみちたような組織のやつらの感じがしたんだよな・・・」

哀「え？」

コナン「だっかーらーいたんだよあのホテルの中にスコッチよりもっと強くて恐ろしい感じをまとった組織のやつが。」

哀「うそ・・・てことはスコッチがだれだかうすうすわかってたわけ？」

コナン「そゆこと。」

哀「なんでspれをいわなかったのよ!!」

コナン

「いや。監禁されるまえはもう一人のやつに夢中で監禁されてからはちょっと鮭のせいで頭まわらなくてさ。」

哀

「はあ・・・じゃあもしかしたらあなたの正体をしつたやつがまだいるかもしれないわけ!？」

コナン

「まあそういうことになるな。」

哀

「そういえば、バングさんとあなたあつたことあつたみたいね。」

コナン

「へ?そんなこといってたか?わり、俺さ、だれかに拳銃むけられたことと弦たたちがきたことしかおぼえてねえんだ。だれがなにいったかはもうさっぱり。」

哀

「まああれだけされといてそんだけのんきなら大丈夫ね。」

コナン「のんきっておい・・・」

哀

「でもあなた当分事務所にかえれないんじゃない?そんな姿じゃ。」

コナン

「だな・・・まあえりさんもかえってきたことだし家族団らんしてんじゃねえか?」

哀

「でもあなたには未来の息子じゃないの?」

コナン

「ば、ばーるー!」

哀

「ふふふ・・・」

コナン

「() やっぱりこいつ鬼だ・・・」

哀

「あら、なにかいったかしら?」

コナン

「なにもいってません」

哀

「いいのよそれで。子供達もきずかれしたみたいで今日はやすむそうよ。ベッドからおりないで子供達の相手をしなさい。」

コナン

「わあったよ。それにしてもさ、昨日お前がきたあとになにがあったかせつめいしてくんねえか?」

哀

「なんならみんなの服に小型カメラしかけといたからみる? もちろん、あなたがさらわれるときのもあるわよ?」

コナン

「へ? じゃあ俺がさらわれたのおめえらみてたのかよ!」

哀

「ええ、もちろん。あの時のあなた、本当の子供みたいな顔してたわよ?」

コナン

「うう……」

哀

「ふふふ……」

歩美

「ふあああああ。おはよう、みんなあ。」

げんた

「腹へったあ。」

光彦

「第一声それですか……」

アミ

「あら、おきてたのね……」

夢

「ねっむ〜い」

平次「ふあああああ。」

かずは

「あ、みんなやん。って、コナン訓どうしたんその怪我。まさかき

のうみんなおそかったこととかんけいあるんじゃない……」

アミ

「ちょっと沸けりなの。わけをききたいなら2000万、ここに
おいていきなさい。」

かずは

「（この子にいわれるとなにもいえへんようになるんよな……
なんでやる……）」

アミ

「ふうん。なにもいわないってことはきかないのね。さ、時間を無
駄にさせたぶん朝食をつくってきなさい。」

かずは

「は、はい……」

でわでわ

キヤラ雑談

はる（さくしゃ）

「まずまず〜みんな昨日のビデオをみましょ〜すたーと!!」

げんた

「お。これ俺達が来たときのコナンだぜ。なんかいつもより性格よ
さそうにみえんな〜」

コナン

「じゃあ普段はどうなんだよ」

哀

「そつね、一言でいって、」

一同

「目立ちたがり屋、かつこつけ、確かに顔はかなりかつこいいし運動できるし勉強できるしだけど、一つ一つのせりふがクサイ。」

コナン

「そこまでいうか？普通。」

一同

「あれ、ちがった？」

コナン

「……あ、こちら辺から記憶がねえんだ。」

歩美

「コナン君をげんたくんがかかえたところからだね！」

コナン

「ふうん。こんなこといってたんだ。おめえら。」

アミ

「あなたは紀をつしなにかけてたからね。おぼえてなくてもむりないわ。」

コナン

「てか俺かつこわり……」

哀

「え。」

光彦

「いつもよりか素直そうでかわいげがありましたよね？」

一同

「うん！！」

コナン

「……………」

はる

「ではではここまでくるとまたのご来場を！！！」

ファイル4 猫探しのコナンたち

ある車の中

ウオツカ「え？あの男、この町でさがさないんですかい？」

ジン「ああ・・・無駄なことはしねえ性分なんだ・・・今頃、助けに来た女と、どこか遠くのまちにしけこんでるところだろーよ・・・俺達に顔をみられた街にのんきにとどなるような男じゃねえからな。」

マイケル「あれ？ずいぶん入れ込んでるんだね・・・その男に・・・」

ジン「悪かったな・・・シードル・・・あの金髪爺いをサポートするためにお前ほどの男をわざわざよんだっていうのに・・・とんだへまにつきあわせちまったな・・・」

シードル

「本当。せつかく事情聴取のまえにハンカチをわたしてやったのによ・・・死んで正解だったな・・・それよりきにならね？そのがきとつるんでる女・・・」

ジン

「ああ。あの男につるんでいる女・・・みてみたいもんだ・・・そのつらを・・・」

シードル

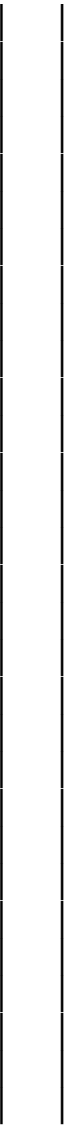
「恐怖にゆがんだ、死に顔をな？」

ウォツカ

「また米国にもどるんですかい？」

シードル

「nonno。しばらく俳優は休業・・・こっちでのんびりするつもりさ・・・ちょっと引つかかることもあるしね・・・」



一週間後

コナン

「猫さがしい!？」

歩美

「そうよ!! 依頼なの!! コナン君もあるけるようになったしさ! !それに報酬がヤイバーの映画の試写会のチケットなの!!」

哀

「いいんじゃない? リハビリだと思えば・・・私はパスだけど・・・やうことがあるから・・・」

アミ

「私はどうしようかしら?」

夢

「あたしはちょっと今日ジョディとお茶のやくそくが・・・」

光彦

「じゃあ僕とアミさん、コナン君と歩美ちゃんどげんたくんでいいですね。」

かずは

「きいっけや〜」

平次

「いっつら〜」

アミ

「まあ暇つぶしていどにはなるわね」

コナン

「……ま、いっか……」

歩美・光彦・げんた

「レッツゴー……!」

アミ

「で、どんな猫なの?」

歩美

「えっとね、アイリーンちゃんっていってね、とっっても気品なめすも子猫よ。ロシアンブルーってしゅるいのね!」

アミ

「ちょっとまって！依頼主、つてだれなの！？」

歩美

「えーつとねえ・・・べいか女子高の校医の浅井雄二先生だよ？」

アミ

「え、ごめんなさい、なんでもないわ。」

歩美

「？」

げんた

「つかまえたぞー！！！」

歩美

「本当？じゃあさっそく浅井先生のおうちいこう？すぐその浅井診療所だから！！！」

アミ

「そーね。」

浅井

「ありがとう君達！！あれ？二人ふえているね。」

アミ

「灰原アミです。哀の双子の妹。よろしく。」

コナン

「ん？ああ江戸川コナン。よろしく。」

コナンはわずかだが冷や汗をたらしていた。

コナン

「（なんか組織の感じがすんだよな・・・この辺・・・）」

浅井

「ひどい怪我だね。どうしたんだい？」

コナン

「ちよつところんじやって・・・」

浅井

「へえ。ではこれ、チケットだよ？有難う君たち。僕は仕事があるから。じゃあね」

歩美・光彦・げんた

「」「さよーならー！！！！」「」

哀

「おかえりなさい？みんな。ココアできてるわよ。はいりなさい。」

かずは

「さむうなかつたか？」

アミ

「さむくないわけではないでしょ」

かずは

「う……………」

平次

「坊主、怪我大丈夫やったか？」

コナン

「大丈夫だよ。」

哀

「ふうん。いろいろあったわね。」

アミ

「夢はまだかえってきてないの？」

哀

「ええ。」

コナン

「でき、今度あいつらがスキーいかねえかっていうんだよ。」

アミ

「いいんじゃない？けど博士はしばらくかえってこないし……………」

平次

「そら俺にまかしとき！！バスでいけばええことやしな！！」

歩美

「やったあ」

光彦

「すきーですー!!」

平次

「んゝあさってでええか。ただし工藤はおとなしゅうロツジでまってるんやぞ」

コナン

「へいへい。」

ファイル4 猫探しのコナンたち (後書き)

新しく登場した人物

浅井雄二 (32)

べいかじよしの校医。

シードル

????????????????????

ファイル5バスジャックじけん。運命からにげてんじやないわよ。哀からのま

歩美

「やったね ついにスキーだね」

平次

「ほら客のつてくんで。ちゃんとすわりいや。」

歩美

「は〜い。」

コナン

「なんかオメ江つまらなそうな顔そてんな。」

哀

「え？」

コナン

「組織にあいたくてしかたもなさそうだぜ？」

哀

「そんなわけないじゃない。子供たちがいるこのかで。」

どっくん!!

コナン「(え?)」

どっくん!!

どっくん!!

コナン

「（これは組織の!?!）」

浅井

「あれ、君たち。」

歩美

「浅井先生。ジヨディ先生も?」

ジヨディ

「おう!!お久しぶりねい!!今からmr浅井と美術館までデートです!!」

浅井

「たまたまあつただけで・・・」

げんた

「へえ。」

コナンはさつとフードをふかくかぶり、顔をかくそうとした。

哀

「ちよつとお、どーしたのよ?」

げんた

「あれ?あの人たちもうスキーウェアきてるぜ?」

平次

「きのはやいやっちゃんのー。ヨーグルまでつけて。」

バスジャックA「うごくくなあつごとぶつころすぞおー!」

一同「!?!?!」

バスジャックB「都内を適当にはしれ!」

ここからはマンガよんでね?

哀

「とりあえず警部に電話つと。てえ!?!」

ばすじやつく

「死にたいかこのがきい!?!」

哀

「(うわゝ携帯とられちゃたじゃない。ていうかあそこから私の席はみえないし、てことは一番うしろに仲間が!?!だれなんだろ?あれ?このスキーバックまさか・・・みてみよ)」

ばすじやつく

「またおめえか!?!ころされてえか!?!」

哀

「やつ」

浅井

「やめてください!?!たかが子供のいたずらでしょっ!?!?」

哀

「よし、やつらはすわってなかったせいでのびてるわね。さあガムのおねえさん、覚悟!!」

おねえさん

「にげてえええあと30秒で爆発するわよおおお!!」

哀

「え!?!」

みんな一揆ににげだした。

コナン以外はにげた。

歩美

「あれ?コナン君は!?!」

光彦

「いませんね...?」

哀

「まさか、まさかあの!!」

コナン

「(そう、コレが最善策...どうせ組織にであったときから逃げ場なんてなかったんだ...それにたすかっても事情聴取でい

やでもあいつと顔をあわせることになる……本と、ばかだよな、おれ……」

がっしゃん

コナン

「え!？」

どっかん!!!

がらがらがら

哀

「はあ、はあ!!--逃げてんじゃないわよ!!--自分の運命から!!--にげんじゃないわよ!!--」

コナン

「灰、バラ……」

哀

「高木刑事、このこけがしてんの。事情聴取わわたしだけでうけるからほかのこといっしょに病院につれてって!!--はやく!!--」

高木

「あ、ああ。よいっしょと。」

高木がコナンをだきあげパトカーにのった。

歩美

「大丈夫？地がいつぱいでてるよ？」

コナン

「ああ。これおれの血じゃないからさ。あいつの血」

ジョディ

「すごかったですね！！」

浅井

「でも、治療がおさき。」

哀

「あ。」

シードルはコナンの写真にダーツの矢をさし炎をつけて武器みにわらった。

シードル

「みーつけた・・・」

ファイル6を見つけた。そして、探しに行くよ〜

コナンたちはゆき子につれていってもらい試写会にやってきたが湖南は怪しいやつらに「おいかけまわされ、心身不安だったが、アミがそれをまいてくれた。」

ゆきこもそのひのうちにきこくし、一件落着かとおもったが……

コナン

「ハアツハアツ」

歩美

「だ、大丈夫なの!？」

コナンはリビングのベッドでみんなにかこまれながら荒い息をあげ、頬をまっかにし、汗をたらして、額にはぬれたタオルをのせてよこたわっていた。

博士

「多分最近いろいろありすぎたせいできずかれしたんじゃろう……」

哀

「まあ誘拐、監禁、銃でうたれたあぎやく大怪我。さらにバスジャックされたしやないで組織の気配をかんじ、そしてそして昨日は得たいのしれないやつらにおいかけまわされた。となればこうなるのもあたりまえだけど……」

平次

「とりあえず東都デパートの病院なら今日もやってるし、評判の卵粥もあるからそこにいこか。ほなにみんなでのれる車かりてきてや」

はかせ

「ちょっとまっとな。」

全員車にのりこみ、いま、とつとでびたむかってはじっている。

平次

「なんやとお!?!2時間まちい!?!」

でんわ

「はい。いま患者さんがたてこんでまして・・・」

平次

「とりあえずよやくしとくわ」

び

平次

「いまからやと2時間待ちやそつや。ま、それまで卵粥でもくいにいこか。」

アミ

「そつね。」

げんた
「やったぜ!」

そしてでばーとの地価の駐車場二車をとめ、みんなでてきた。

哀

「はい。まだ頭くらくらするんでしょう?つかまりなさい。」

コナン

「……………いいよ、車ぐらい、自分で、でられ!」

コナンはそこまで行った瞬間棒立ちになった。

前の駐車場にポルシェが数台ならんでいる。

光彦

「ん、ああ。大丈夫ですよ、どれもジンのとは色や種類がちがいますから。」

コナン

「俺、やっぱり車のなかでまってるよ」

コナンはそういうと車にはいって行ってしまった。

博士

「お、おい!」

アミ

「しょうがないわよ・・・」

一同

「え？」

アミ

「得たいのしれないやつらに一日中おいまわされたのよ？だれだつてそうしたくなる・・・さ、いきましよう？」

歩美「う、うん。」

そういうとコナン以外の人はでていった。

一時間半ほどたったころ、みんなが車にもどってきた。

コナンはさきほどとおなじように荒い息をあげ、後部座席に＼こたわっていた。

そんなコナンをへおぞがもちあげ、タオルケットをかけながらおんぶして歩き出す。

コナンをみんな心配そうにみていた。

コナンは病院につくとすぐよばれ病室にはいっていった。

しばらくすると、コナンと博士がでてきた。

はかせ

「ただの風邪みたいじゃよ。大丈夫、すぐなおるそうじゃから。」
そついうとコナンを平次にわたした。

コナンはそうとううかれていたのか平次におんぶされて運ばれている途中ねてしまった。

3日後……

歩美

「よし、やっとげんきになってきたね！コナン君！」

コナン

「ああ、もう咳だけだからな……」

アミ

「まあそれだけおちついてきたってことじゃない？」

コナン

「そーかもな……」

哀

「でもまだ外にでちゃだめよ？やつらがいるかもしれないんだから。わかってる？工藤君。」

コナン

「へいへい……」

夢

「は〜い夢特製あつあつ卵粥〜 たるが低のにはまけるけど〜 風邪引きさんにはこれがいっちばん はい、どーぞ」

コナン

「サンきゅ……」

夢

「みんなはさんどいっちな〜はいこれ！」

コナンは湯気がたっているおかゆをたべだした。

コナン

「あちゅ……」

『まあそれだけおちついたってことじゃない？

そーかもな……

でもまだ外にでちゃだめよ？やつらがいるかもしれないんだから。

わかってる？工藤君

へいへい。

は〜い、夢特製あつあつ卵粥〜 たるが低のにはまけるけど〜 風邪引きさんにはこれがいっちばん はいどーぞ
サンきゅ……

みんなはサンドイッチね〜はいこれ！

あちっ・・・』

シールドは暗い部屋でイヤホンを耳につけコナンたちをとうちょうしていた。

シールド

「ふふっ・・・俳優を休業しただけあつたな・・・ナイン、エイ
ト、セブン、シックス、ファイブ、フォー、スリー、トゥ、ワン・
・ready or not・・・もーいいかい here i came
・・・さがしにいくよ？ i see you・・・見つけた」

ファイル7〜3人もちっちゃくなちゃったあ!?!どたばたばったん探偵事務所!

快と青子は蘭とコナンのともだちせっていて、かいとは正体をばらしキッドいんたいしてるせっています。

ファイル7〜3人もちっちゃくなちゃったあ!?!どたばたばったん探偵事務所!

蘭

「風邪ひいちゃったみたい、この前お父さんが買ってきてくれた薬のも……」

ごっくん

蘭

「あれ、なんだろ、体があつ……い……」

ばたっ

コナン
「鏡みてみるよー!!」

蘭
「うそ・・・小学1年生になってる・・・てことはコナン君は新一!?」

コナン
「あ、ああ・・・」

蘭
「どうしてだまってたのよ!!!バカあ!!!」

コナンは事情をはなした。

蘭
「なんだ、私がたよりなかったわけじゃないのね・・・よかった・・・でね、この前お父さんがかってきた薬のんだらちいさくなちゃったの!!!ケースのなかでひとつだけ色がちがうからおかしいなとおもってただけど・・・」

コナン
「そうか・・・まず博士にさっきのことはなしといたから今博士がおまえのいたんしょうへの転入手続きしてんだよ。俺とおなじくらすにしてくれるみたいだし。偽名かんがえろよ。」

蘭
「うーん・・・あ、鈴蘭真実!!!（すずらんまみ）鈴はその二、蘭はわたし、真実はしんじつってかくでしょう?」

コナン

「お、いいんじゃないか？それと正体は園子、おめえのかあさんとうさん、大阪のふたり、博士にははなしていいぜ？」

蘭

「わかった。哀ちゃんが薬をつくってくれてるのよね・・・がんばるわー！」

どーん！！

ドアがあいてちっちゃい快とと青子がいってきた。

快と

「あのさあ、風邪薬のんだらちんじやっただけど。いまはかせんちいって転入手続きしてもらってるけど。」

青子

「もう最悪う。これからは同じクラスだね、コナン君、えと・・・偽名なに？」

真実

「鈴蘭真実だよ！！真実つてよんで？」

青子

「うん！！よろしくね、真実！！青子の偽名は中村葵だよ！！葵つてよんでね！！」

快と

「俺の偽名は黒木正樹だ！！正樹つてよべよな！！」

真実

「あのね、いまからお母さん達に正体はなすの・・・」

葵

「葵はもうおわったよ。」

正樹

「おれも。てっだうぜ」

真実

「ありがとう！もうすぐみんなくるから」

びんぽーん

真実

「あ、きた。最初私かくれてるから。コナン、後たのんだわよ。」

コナン

「ほいほい。」

えり

「で、なんなの？蘭について話して。」

園子

「たったとおわらせてくんない」

かずは

「どこにおんねん？蘭ちゃん。」

コナン

「おい、出てこいよ、はずかしがってねえぞ。」

葵

「う、うん……」

園子

「まさかそのこ、蘭、とかいあないわよね……」

葵

「その、まさかなの……」

小五郎

「うそだろ……」

真実

「私は蘭よ。今は鈴蘭真実っていうけど。お父さんがかってきた風邪薬のんでこうなっちゃったの……」

かずは

「て、ことはコナン君は工藤君!？」

コナン

「あ、ああ。俺は江戸川コナンこと工藤新一です……」

小五郎

「た、たんていぼっず!？」

園子

「ちょっと、なんで蘭にだまってるのよ!?!ずっとそばにいたのに、蘭がいままでどんなきもちでいたとおもっわけ!?!」

かずは

「せや！蘭ちゃん、毎回工藤君のこと心配そうにはなしてたんやで！？」

平次

「ちよおまちい！！工藤の事情もしらんで勝手なことゆうんでない！！工藤、俺とふたりになると姉ちゃんの子とめっちゃ心配そうにはなしたさそうに歯くいしばってみてたんやで！？でも、工藤が血ッ著なつた理由の工藤に薬飲ませた組織はわらつて人をころすやつらや。工藤の正体しつたらやつらのターゲットになつてまうかのうせいもあつたから工藤はだまつてたんや。」

かずは

「え……ごめんな……工藤君……」

園子

「じ、ごめんなさい……」

コナン

「あ、いや別にいいんだよ。だましてたのには違いなし、それにもともと幼児化したのも俺が組織の取引みちまつたからなんだから……」

真実

「それでね、このことはだれにもいわないで。新一の正体をしつてるのも探偵団のみんなとはかせ、はつとりくん、新一のおとうさんおかあさんしかいなかったんだから……」

コナン

「それで蘭も鈴蘭真実として俺のクラスにかようことになったんです。住む場所は蘭はここでいいとおもうんですけど……あと後ろにいる中森青子ちゃん、黒場かいともようじかして中村葵、黒木正樹としてこっちの小学校にかようんです。」

小五郎

「……コナンとま、真実はここにすんでよしとしてもう二人は……」

園子

「じゃああ、葵ちゃんと正樹くんは私んちにきなさい。」

正樹・葵「ありがとうございます。」

真実

「やったね新一！明日から学校だしたのしくなるね」

コナン

「ああ。それにそなえて今日はもうねっか。」

真実

「そうだね。楽しみだな……2度目の小学校！」

コナン

「そーか？退屈だけどな」

真実

「そお？楽しそうじゃない」

コナン

「でもこのままいくと二人して留年だな・・・」

眞実

「あ・・・でもいいや・・・新一とかよえるし。」

コナン

「・・・かもな」

ファイルもじょじょにわかっていく組織のこと・・・アミがしている5代組

哀

「ねえ、アミ？」

アミ

「なあに？哀。」

哀

「あなたさ、どうやって若返ったわけ？」

アミ

「魔法・・・これでいいかしら？」

哀

「は？」

アミ

「知らない？組織は組織でも5代連盟があるのよ？黒の組織はその中の2番目・・・まだあまっちよるいほう・・・だから他にも4つ、他の、もっとおそろしい組織が4つあるのよ・・・。確か名前にはダイヤの組織が1番弱くてつぎにつよいのが黒の組織、つうじょうブラックパールの組織。そのつぎがエメラルドの組織、さらにつぎがサファイアの組織、で、もっとも最強なのが、パンドラの組織、ってわけ・・・。ただこの組織の連盟はもうひとつのようになっていてどこの組織の情報も流れてる。だから時期にあなたや工藤君を殺すために他の組織もつぎだすわね・・・。で、ブラックパールの組織が現在動いて居る組織。ジンやウォッカ、私やコルンにキャンティ、さあにすばいだったキールとかこのまえしんだスコッチ、

そして私も正体やかおはしらないけどシールド、そして下っ端構成員は魔法でなく、頭脳や武器をあつかっているの。けどほかにもいてボスも銃と頭脳、さらに魔法をかねそなえていて、さらにそのしたに魔法がつかえる2人がいるわ。その2人にはコードネームがついていなくて換わりにブラックとパールってよばれているわ。ブラックのほうはかなりの実力をもっていて完ぺき主義者、パールはちょっとかわっててロリコン、しかも大の拷問女。スポーツはおもてにでていないだけでほとんどできて全国レベル、人をもてあそぶことが趣味、さらにとくぎは拷問、監禁って本人がいつてるくらいだから……。頭もかなりきれし、演技もうまくてね……。薬学にもすこしくわしいみたいだし。彼女がうごきだしたら本当にやばいわよ？まあうごきだしてらっしゃうけど……」

哀

「じゃ、じゃあその拷問女、どんな魔法がつかえるわけ？」

アミ

「確かどこからでも想像したものがだせるとか。ブラックについてはなんにも。他の組織にも、ロリコン、拷問ずきが結構いてみんな魔法がつかえてそれでサークルつくってるとか。まあほかのそしきはみんな魔法がつかえるみたい。まあ私がしってるのはこれぐらいかしら？やつらとたたかえるよう、隣のMAHO書ぶにでもいつてアイテムでもかいそろえておくのね。」

夢

「じゃあさ、みんなでいこうよ。」

光彦

「そうですね。てか蘭さんやかいとさんに青子さんまでちじんてしまうなんて。」

真実

「うん・・・でも私達はのまされたわけじゃないし新一や哀ちゃん
とちがって命がねらわれてないし。それだけで十分！さあこのはな
しはあとにしよう？せっかく転入初日なんだもん。学校いこう？」

歩美

「そっだね！」

ファイル9 転校生！！教団のまえで痴話げんかスタート！！快とのランの声

小林

「今日は転校生がなんと3人います！！はいつてきて」

がらっ

一同

「か、かわい〜コナン君にそっくりい〜」

正樹

「よお！黒木正樹だ！！コナンとは双子じゃねえぜ？探偵とそのおつてる犯人との腐れ縁つてやつ！得意はマジック、となりの葵とは幼馴染だ！」

葵

「こんにちは、中村葵だよ！隣の真実ちゃんとは双子じゃないからね！正樹のおさななじみだよ！」

真実

「こんにちは、鈴蘭真実です。コナンの生まれたときからの幼馴染でいつしよにすんでます。特技は空手で苦手なものはお化けです。よろしくね？」

夢

「おさななじみ？うそおっしやい、コナンと真実は夫婦でしょ〜？」

真実・コナン

「「ふ、夫婦じゃない！！おさななじみ！！」」

夢

「なにいつてんの〜もう夫婦同然でしょう？毎日痴話げんか、お弁当を真実がつくってあげてご飯も真実が。立派な堂才じゃない。それに前の学校でも有名なバカップル、または名物夫婦として有名だったじゃない？」

一同

「ふ、夫婦！？」

真実

「そ、そんなんじゃないわよ！！コナンもぼっとしてないでなんかいいなさいよ！」

コナン

「な、なんで俺なんだよ！？」

真実

「もう！！そんなこともできないわけ！？本当音痴のくせにホームズおたく、さいあくね！！」

コナン

「あんだと〜この怪力女！！」

真実

「はあ！？だれが怪力女よ！！私は空手が好きなだけ！！どっかの勉強もせずに毎回テストで1位とってたおきらくさんになんかいわれたくないわ！！」

コナン

「だれがおき楽だつてえ！？そついうおめえも歌つたえんじゃんか
！！！」

眞実

「あれは練習したもの！！誰だつて練習すれば！！あ、あんたは練習してもむだな音痴さんだつたわねえ！」

コナン

「あんたとくおめえこそどんだけやたつて推理できねえじゃねえか
！！！」

眞実

「あんたとちがつて世界的推理小説化と日本1の大女優が親じやないの！！あたりまえでしょ！！それにわたしホームズおたくじやないし！！！」

コナン

「あん！？父さんと母さんは関係ねえだろ！！おめえこそ法廷の女王の娘じゃねえか！」

眞実

「それもべつ！！！」

コナンと眞実のやりとりをみんなぼかんとした顔でみていた。

だがこれ以上とまらなそうなので正樹が手をうった。

正樹（蘭の声）

「新一ィ、ご飯できたよ〜！」

コナン

「蘭!？」

真実

「わ、わたしい!？」

葵

「ふ、ふたりとも?けんかはあとにしたほーが・・・」

コナン

「////////」

真実

「////////」

小林

「ま、真実ちゃんはコナン君の隣のせきでいいわね」

一同

「ええ〜私もコナン君のとなりがい〜!!」

真実

「やっぱもてるんだあ、コナン・・・一応キッドキラーとして有名だし。」

哀

「ええ。ファンクラブまであるわ。」

葵

「うわあ、す〜・・・」

コナン

「真実、いいよすわって。」

真実

「あ、う、うん」

小林

「じゃあ正樹君と葵ちゃんはいちばんうしろ吹いた津あいてるからそこんびすわって?」

正樹

「へーい」

葵

「はい」

真実

「は、はずかしいことしちゃったわね・・・」

コナン

「たしかに・・・」

ファイル10〜MAHOショップでの買い物。哀の新たな妖精の仲間達

授業がおわり、MAHOショップ

哀

「あら、どこでも妖精よびだしボール、いいわね。ちいさい子犬の妖精が3匹でできます。ただし1回つかうと1日はつかえない。まあいいわこれくれる?」

定員

「はいよ。」

真実

「人を眠らせる効果があるあわをだせるうでどけい・・・ただし3発のみ。これでいいや!」

夢

「どこからでもけんがだせる。帽子。これ平時さんにかつてこ。あたしもおなじの。」

葵

「葵はらんちゃんとおなじの」

正樹

「おれはいんねーや。」

コナン

「おれは空を飛べるスノボでいつか。」

歩美

「歩美はいいや。」

光彦

「ぼくも。」

げんた

「おれもだぞ。」

アミ

「わたしもいいわ。」

眞実

「じゃあかえりましょう？もうおそいわ。」

葵

「うん、葵もかえる！」

ファイル111〜1111とびじょじょロリコンパール！コナンをひするー！〜

真実

「あのね新一、明日なんだけどさその子といっしょにあそびに行くの。お父さんもお母さんも仕事でいないし、新一の家掃除してきてくれない？」

コナン

「ああ、わかった」

真実

「ありがとう！お昼ははかせんちでたべてね！おやすみ！」

コナン

「おやすみ・・・」

工藤邸にて

コナン

「きつたね」

ピンポーン

コナン

「ん？だれだ？1ヶ月前に沖やサンはでてったし。まあいつか」

がちゃ

コナン

「お、おねえさん、だれ？」

コナンはドアをあけるとたっていたにっこりわらっている女にいった。

なぜか組織の気配がする。

女

「あ〜ん、かわいい〜」

コナン

「は？」

おんな

「私のなまえはパール、おぼえといて？」

コナン

「ば、パール・・・まさか組織の・・・」

コナンはそういうと大声をだしてあがさ邸のなかの0あいにきずかせようとした。

だが声を出す前にパールにいきなり腹をけられた。

パール

「おねえさんといっしょにあそぼうっね、ぼ・う・やっ。」

そういつと暴れるコナンをだきかかえ口に手を沿えd o aにかぎを
かけ部屋にはいっていく。

ファイル12〜手相占い、身近なひととむすばれるう〜

一方蘭と園子

園子

「ひっさしぶりだねえショッピング！いまは真実とだけど」

真実

「大丈夫、いつかはもどるから！あ、あそこのお店いこうよ」

園子

「占い、館？」

くうらないかん〜

女

「よーこそ、裏内観へ、」

真実

「あ、あのちよっと手相みてもらいたいんですけど……」

女

「いいわよ？手だして？」

真実

「あ、はい」

女

「うーん、恋愛のがとってもよくでてるわ、身近のひととちかいう

ちにむすばれるでしょう?」

真実

「ほ、ほんとうですかあ!？」

園子

「よかったわね、真実。」

真実

「う、うん……」

女

「うふふ……以上かしら?」

真実

「あ、はい、ありがとうございます!」

女

「いいのよ、手相みただけだしお金はいいわ。」

真実

「あ、ありがとうございます!」

ファイル13〜ロリコンパールがこつもあつさり？誰にもしられていないHミク

一方コナンは新一の自室に居た。

パール

「あのね、棒や、今日はあるこをつれてきたのよ？」

歩美

「・・・」

コナン

「あ、歩美!？」

パール

「ええ、ブラックにたのんであやつってもらってるの。だからいまは私のぶかっつてこと。ねえ棒や、おねえさんとあそばない？」

コナン

「だれがてめえなんかと・・・うっ!!」

コナンがそういいかけたしゅんかんパールがコナンのほおをなぐつた。

一回なぐられただけなのに気絶してしまいそうだ。

パール

「うふふ・・・今度くちごたえしたらまたなぐつちゃうわよ?」

コナンは必死に脱出ルートをさがした。

だが入り口はパールがふさいでいて窓もパールによって鉄のいたがはりつけられている。

ふとコナンはポケットをあさる。

そして時計方麻醉銃をだしパールをねらい発射した、が。

パールはそれをいともかじんたんによけてコナンをなげとばした。

パール

「あれつかえるの1回だけだからね〜残念」

コナンはそばにやってきたパールのむこうずねにむかってけりをいれようとした。

が、パールはそれをかわしコナンをなぐってベッドになげた。

すでにコナンのからだはあざだらけだった。

パール

「もう、あばれんぼ　そういうこはこーだぞお」

パールはそういつと魔法で手錠を4つだした。

それからコナンをおさえつけ丁寧に両手と両足に手錠をつけベッドにこていしていった。

コナン

「（本当にこいつ）どうかしてる」（）

パール

「うふふ・・・いま頭のなかでこいつどーかしてるとかおもってたでしょー全部顔にかいてあるよ?」

パールはそういってコナンの顔をもう一回なぐった。

パール

「うふふ・・・おねえさんとあそぼーね コ・ナ・ン君?うふふ」

コナン

「なんのつもり?これはずしてくんね?別に俺はおまえとあそぶきはない。」

コナンがそういうとパールはまたコナンの腹をおもいきりなぐってからにっこりわらうとあった。

パール

「だーから、さつきいったでしょ?さからったらなぐるってそれに、君、いま拒否できる状態じゃないでしょ?」

コナンはふつつと息をすいこんだ。

dふあがパールはそれをみこしていたのかコナンの口あたりをおもいきりなぐる。

コナンの口からは血がすこしでていた。

パール

「うふふ 無駄よ?私はいまからお遊びタイムなんだから 痛い?」

コナン

「・・・ったりめえだろ・・・」

パール

「きやはっ これだからいいのよね 監禁って もっといい声でないでね？コナンくん？」

コナンは背筋に寒気がはしるのがとまらなかった。

パール

「もっきゃわいー」

コナン

「(うわ・・・だめだいかれてる・・・こいつ・・・)」

ぴんぽーん

哀

「工藤君、はいるわよ〜」

アミ

「いいのかしらかってにはいって」

平次

「かまわへんかまわへん、さっきからへんな物音たてとるあいつがわるいんぜ」

かずは

「ねえ、なんかみようにしずかやない？」

ゆめ

「うん」

パール

「友達かな？まあいいや、ちょっとねててね？」

パールはそういうとまみとおなじ時計でコナンをねむらし上から毛布をかけた。

それからみずからするどい研をだす。

そしてついに平次たちがやってきた。

平次

「うわっだれなんあんた！！て、工藤
！？」

パール

「こんにちわ〜 この歩美ってこね〜ブラックにたのんであやつつ
てるの〜コナン君とはいまあそんでてねかせたところ。それとあたし
パール」

かずは

「あそんでたって・・・じゃあ何で工藤君そないなあざだらけなん
！？」

パール

「そりゃあそんだから？」

アミ

「なにがあそんだよ……このロリコン拷問女……」

パール

「ひつど〜。ロリコンじゃなくて子供ずきなだけよ〜それに人をなぐるのぐすきなだけだし〜」

夢

「……………」

その瞬間、哀がパールに麻酔銃をうちこみねむらせた。

それでコナンにかけよる。

哀

「手錠……ひどいなぐられよう……かぎ、ない？」

アミ

「はい、鍵。」

哀

「ありがとう。」

そういつとコナンの手錠をはずしてかずはがコナンをだきあげた。

アミ

「なんかあつさりしすぎてない？パールがこんなに簡単に……………」

平次

「ま、とりあえずこいつは交番つれてくさかい、まっけてくれや。」

そういつと平次はパールをだきかかえでていった。

このときだれもしらなかつた。

パールの口がわらっていたことを……

しばらくすると蘭と真実がなきながらやってきた。

真実はすぐに寝ているコナンにほうたいをまいた。

しばらくするとコナンがおきあがった。

コナン

「痛っ」

真実

「よかつた新一!!」

コナン

「蘭?」

へいじ

「安心せい、ぱへるなら牢屋んなかや。」

コナン

「……そうか……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0214ba/>

キャラ崩壊！！物語1～こくこく染まる黒～

2012年1月5日00時50分発行